

平成28年度 秋田市まち・ひと・しごと創生  
総合戦略検証委員会 会議録

日 時 平成28年8月2日（火）午前10時～午前11時15分

会 場 秋田市役所5階 正庁

出席者

秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会委員（5名全員出席）

山口邦雄委員、進藤史明委員、佐藤裕之委員、野口良孝委員、山崎純委員

市側

企画財政部長、企画財政部次長、総務部次長、観光文化スポーツ部次長、市民生活部次長、福祉保健部次長、保健所次長、子ども未来部次長、環境部次長、産業振興部次長、建設部次長、都市総務課長、教育次長、企画調整課長、人口減少対策担当課長、企画調整課長補佐

次 第

1 開会

2 企画財政部長あいさつ

3 議事

(1) 会長の選出

(2) 地方創生先行型交付金事業（平成27年度実施事業）の効果検証について

(3) 秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る指標の平成27年度実績値の報告について

(4) 今後の検証の手法、あり方について

(5) その他

4 閉会

- 1 開 会 (省略)
- 2 企画財政部長あいさつ (省略)
- 3 議 事

	<p><b>議事(1) 会長の選出 (省略)</b>          会長を山口委員が務めることとなった。</p>
	<p><b>議事(2) 地方創生先行型交付金事業（平成27年度実施事業）の効果検証について（資料1・2に基づき説明）</b></p>
事務局	<p>資料1・資料2について、事務局への確認や質問等を含め、意見等はないか。</p>
委 員	<p>2の移住促進事業について、目標に掲げる移住者数が見えない。対象も、秋田市にゆかりのない人より、Aターン希望者や教育に興味がある子育て世帯などに対象を絞るべきと考えるが、ターゲットをどのように考えているのか、詳しく説明いただきたい。</p> <p>9の潜在保育士掘り起こし事業について、研修のみで終わっているのか、それとも事業者とのマッチングまでやっているのか。</p>
事務局	<p>移住促進事業の目標については、総合戦略18ページに記載しており、平成26年度4人であった移住者を平成31年度には67人とするという目標を掲げている。27年度は18世帯40人の移住者がいたものであるが、本事業を通じた移住ではなかったためゼロとしている。</p> <p>ターゲットについては、公には絞っていないものの、間接的には、例えば8ページの第2子保育料無償化事業のように子育て世帯に厚いものとなっているが、広く移住者については対応していきたいと思っている。</p> <p>今後、ターゲットについては検討していきたい。</p>
事務局	<p>9の潜在保育士掘り起こし事業については、保育現場と意見交換をした際に、「待機児童を解消するためには保育士が必要であるが、なかなか確保できない」という意見があったことから、保育士免許を持ちながら保育士として働いていない人はどのくらいいるのか調査をしたのが27年度であった。この結果、約500人が就労を希望しているというものであった。これを踏まえて、保育現</p>

場から遠ざかった人が現場に戻ることができるよう研修を実施することとしている。

今年度、人材バンクを立ち上げたことから、この人材バンクによって各保育所の求人情報を提供することで、就労を希望する方については市の方から積極的に情報を提供していきたいと考えている。さらには、保育所とも連携しながらマッチングまで進めることができればと考えている。

委 員 500人の内訳は、どのような人達か。

事務局 具体的な数字は手元にはないが、結婚・出産を機に保育所を辞めた方や、今現在他の職種に就いている方などであり、年代としては30～40歳代が多かったと記憶しており、マッチングまで進めることができればと考えている。

委 員 2の移住促進事業について、いろいろ取り組まれているが、これらの取組から炙り出される定性的な課題、問題としてはどのようなものがあるか。実際に移住体験させてみて、どこが良かったのか、逆に良くなかったのか、今後この取組を進める上で参考となる定性的なデータはあるか。

また、3の創業支援事業について、秋田で創業する上での課題は何であると捉えているか。また、定性的なデータ、問題点はあるか。

7の地域しごと支援事業について、どのような資格の取得が多かったか。また、就労につながるということが重要だと思うが、具体的な就労につながった例はどれくらいあったか検証したのか。

事務局 移住促進事業について、昨年度実施した移住体験ツアーには9世帯16人から参加いただき意見を聞いたところ、皆さん一様によかったと言っていた。

ツアー参加者を募集する際には動機を聞いているが、6～7割の方が何かしら秋田に所縁がある方であり、秋田を想いかえすというのが動機であった。他には、たまたまスケジュールが空いたため参加したというのも多かった。

他の市町村にも状況を問い合わせたところ、ツアーについては、地域の行事に合わせるなど観光が主となることが多いというもの

であり、本市のケースも同じく、参加者からは移住の本気度を感じる事ができなかった。

このため、今年度は本気度が高くなければ組み立てられないオーダーメイド型としてツアーを実施している。

委員 データ化しにくい分野ではあるが、なぜ来たいと思ったのか、そういう点を分析しなければ、なかなか先に進まない取組であると思う。移住促進に関しては地域間競争の意味合いが大きいと思われるため、秋田に住むきっかけ、モチベーションとしてどこをわかしてもらうのが一番良いのかについて組み込んでいくのが大事だと思う。ツアーのPRも少ないのではないだろうか。応募者が多い中から絞り込むことが理想だと思うため、PRにも力を入れてもらいたい。

山口会長 ツアーをやりっ放しではなく、今年度は工夫して実施している。かなり手がかかる取組であるため頑張ってもらいたい。

事務局 創業支援事業について、操業に当たっての課題は、資金面と運営面だと考えている。創業資金を補助する制度を設けてPRしたが、27年度に制度を利用した22件のうち上半期が6件、下半期が16件であったが、これはPR効果が表れるのに時間がかかったためと捉えており、今後は改善を図ってまいりたいと考えている。

また、運営については、本市に相談窓口を設けているほか、商工会議所等の専門機関への取次を行っており、さらにこのほど創業のための専門のポータルサイトを立ち上げたところであり、市のほか県や他の団体の支援策も含めて一元的な情報提供にも努めている。今後も創業支援に努めてまいりたい。

地域ごと支援事業についてであるが、資格取得の主なものは、事務系ではパソコン検定や簿記が多い。運輸・建設関係では、大型免許やクレーン等の免許であり、この他には介護、福祉関連の資格取得が多かったものである。資格取得が就職につながったか否かについては、アンケート調査を実施し、現在集計している途中であるが、現時点では約7割が就職につながったという状況であり、今後も検証をしながら効果のある事業にしてまいりたいと考えている。

- 委員 資金面については、補助率2分の1などとあるが、そもそも元手がないという人もいると思う。このような人が相談し、助言を受けることができる仕組みも検討していただきたい。  
資格取得については、就職した人へのインセンティブなどを検討してはどうか。
- 事務局 ご意見を参考としたい。
- 委員 5のインバウンド観光客情報発信事業について、外国語版観光情報を提供とあるが、言語ごとにどのくらい見られているのか。また、宿泊施設ごとにWi-Fi環境を整備するとあるが、どのくらい活用されて、効果がどのくらいあったのか。
- 事務局 外国語版サイトであるが、英語、中国語、ハングル、タイ語で提供している。合計の閲覧数は16万ビューであったと記憶しているが、言語ごとについては手元に資料がない。  
また、Wi-Fi設置状況については、駅前から市役所あたりまでの中心市街地あたりでは、ほぼ環境が整っている状況がある。しかし、市が整備したものと民間で整備したものとでシステムが混在し、使い勝手が悪い部分もあるということで、その改善を図っていきたいと考えている。
- 委員 評価に当たっては数字で行うことが適当であることから、それぞれの項目については、できるだけ数字を用いてもらいたい。  
宿泊施設のWi-Fiについては、3分の1の負担がハードルになったとあるが、それであれば新しく予算を設けて実施することで改善される部分もあると思うため、検討してもらいたい。
- 委員 8の健康長寿社会形成事業について、市が掲げるエイジフレンドリーシティを進めるためには、高齢者の社会貢献が必要と思われる。事業にあるコミュニティ作りの効果が出てきていると感じることもあるが、事業を進めることによってシルバー人材センターを活用するなど、お互いが助け合うという気持ちが出てきており、参加者が増えてきているという実態があるため、今後も内容を深めていってもらいたいと思っている。

- 事務局 この事業については、2つの取組から成り立っており、まずモデル地区を4つ設定し、地域住民と地域課題を考えるという取組では、実際に新しいコミュニティ活動としてオープンガーデンや、地元食材を生かした料理教室などが出てきている。また、地域の資源を幅広く分析して、健康活動に限定せず、身近な社会参加から地域に関わるという展開をしているところである。
- また、もう一つの取組では、高齢者の暮らしのあり様をまとめた上で、高齢化をテーマとした展覧会も開催している。展覧会の中では、「人生の先輩から学ぶことができた」、「高齢化を悲観的にとらえていないところが良い」などの感想が多数あった。
- なお、シルバー人材センターについては、高齢者の方々も就労を通じて社会参加を深めていくことができ、健康や生きがい就労にもつながっていくものとする。
- 委 員 これからもよろしくお願ひしたい。
- 委 員 昨年度の移住ツアーについて、観光気分であったり、昔住んでいた秋田市を振り返ってみたいということで、本気が見えなかったという課題があったと思う。本気になっている人をどうやって見つけていくのが大事だと思われるため、オーダーメイドにした場合に旅行との線引きが必要であり、本気の方の掘り起しに力を入れてもらいたい。
- 山口会長 移住ツアーに参加した方でも本気の方がいたと思うがどうか。
- 事務局 移住ツアーのアンケートでは、条件を整えば移住したい、良い就職先が見つかればなどの回答は多くの方が書いている。しかし、さらに踏み込んだ質問には答えが見えてこない。移住相談セミナーに参加しても同じような状況である。このような中で掘り起しは重要であるが、なかなか難しいのも現実である。
- 山口会長 事業の目的は本気の方を対象にするのか、それとも願望として移住を考えている人を本気にさせるのかなど、どちらも考えられるため、整理して進めた方が良いと思う。

事務局	ご意見を参考として取組んでまいりたい。
事務局	<b>議事(3) 秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る指標の平成27年度実績値の報告について、および、議事(4)今後の検証の手法、あり方について) (資料3・4に基づき説明)</b>
山口会長	資料3・資料4について、意見等はないか。
委員	P D C Aについては、K P I という結果だけでは難しいため、K P I 以外の数字も示していただかなければ、数字の意味合いを十分に捉えた検証ができないため、考慮いただきたい。
山口会長	十分な検証ができるように資料を工夫していただきたい。
委員	資料3の4ページのエ、環境関連産業の育成・創出について、個別の団体名が記載されているが、この分野についてはI T 関連や建築設備関連とも連携しなければ難しいと思われる。パートナーを再検討してはどうか。
事務局	ビルメンテナンス事業者については、清掃中心の業務からエネルギー管理まで見ている事業者もいる。広く省エネ分野に業種転換することが見込まれると考えたものである。今後、意見を参考としていきたい。
山口会長	進捗状況をグラフで表しているが、はじめのうちは効果が現れにくいなど、このような形で評価できないものもある。これを踏まえて記載の仕方を工夫してはどうか。 また、5カ年の計画の中で、目標値が妥当だったか否かという疑問も出てくると思うが、途中で目標を見直すこともあり得るのか。
事務局	著しい社会情勢の変化があれば別であるが、基本的には目標値を変えることは想定していない。
山口会長	当面は、目標値の変更は考えていないと理解する。

### 議事(5) その他

山口会長

その他として、委員または事務局から何かあるか。

事務局

いただいた貴重なご意見については、事務局として真摯に受けとめ、今後の総合戦略に係る取組に活かしていく。

今後のスケジュール等であるが、本日の議論等をまとめた上で、地方創生先行型交付金事業の検証結果について、今月中に県を通じ、国へ報告することとしている。その後、市議会9月定例会において報告の上、ホームページへ検証結果を公表することとしている。

なお、次年度以降の事業への反映等を含め、情報提供をしながら、検証委員会を今後も開催してまいりたいと考えていることから、引き続きご尽力たまわるよう、お願い申し上げます。

#### 4 閉会（省略）